

# 高土区 地域協議会 だより

第 55 号

発行：高土区地域協議会

令和 7 年 11 月 25 日発行

高土区地域協議会事務局（上越市 中部まちづくりセンター）

所在地 上越市木田 1-1-3 市役所第二庁舎 2 階

TEL 025-526-1690 / FAX 025-520-5852



## 「高土区地域協議会」アンケート結果（抜粋）をお知らせします

これまで地域協議会では、地域の課題について、様々な分野から話し合ってきました。その中で、高土区の人口減少が話題となりました。次のとおり、上越市全体の 15 年間（H17～R2）の人口減少率が 10.0% のところ、高土区は 21.1% であり、2 倍以上のスピードで人口が減少し、さらに少子高齢化が進んでいることが分かりました。

- ・人口減少率（H17～R2） : （全市）△10.0% ⇄ （高土）△21.1%
- ・高齢者（65 歳以上）の占める割合（R2） : （全市）32.4% ⇄ （高土）40.5%
- ・子ども（18 歳未満）の占める割合（R2） : （全市）14.7% ⇄ （高土）12.6%

地域協議会は、少子高齢化の進行により、①地域において日常的にコミュニケーションを取りにくくなっている、②住民同士の情報を共有できる場や機会が少なくなっていることに着目し、「1 人口減少」「2 コミュニティ」「3 子育て」の 3 つの分野に高土区の課題があると仮定しました。

そこで、今後の協議の方向性が地域の考え方と相違がないか確認するため、高土地区の町内会長の皆さんへ 9 月 25 日から 10 月 10 日までの期間でアンケートを実施しました。

今号では、アンケートの集計結果から、「1 人口減少」「2 コミュニティ」について、抜粋して掲載します。



### （アンケートの概要）

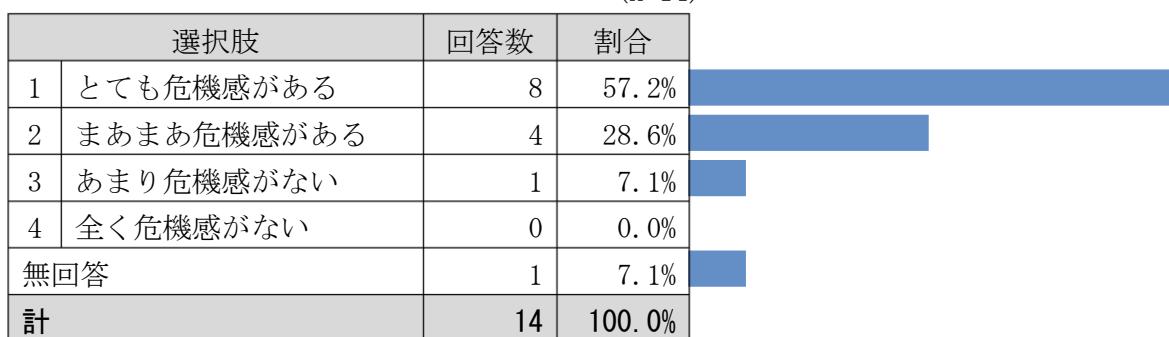
1 調査目的	高土区地域協議会が地域課題と捉えた事項と地域の皆さんができる地域の課題とに違いが生じないよう、アンケートで検証し、地域の想いをくみ取り、自主的な審議のテーマを設定し、今後の活動にいかしていくため。
2 調査方式	<ul style="list-style-type: none"><li>複数項目からの選択及び記述</li><li>14 町内会の会長へ質問票を紙ベースで配布、回収</li></ul>
3 回答者数	14 町内会（回答：13 町内会）回収率：92.9% ※1 町内会は、ご都合が合わず、ご提出いただけなかった。
4 その他	<ul style="list-style-type: none"><li>複数回答可の回答割合の計は 100% 以上となる。</li><li>抜粋して掲載しているため、問番号のない設問あり。</li></ul>

## 1 人口減少

問1 高土地区の人口減少の現状について、危機感はありますか。（択一）

※「【参考】人口減少の状況（高士区）」の資料をご覧いただいた上で回答いただいています。

(n=14)



問1-2 【問1について】理由をお聞かせください。

選択肢	理由
1 とても危機感 がある	清里区、諏訪区と同様の減少傾向にショック。これ程の人口減少とは思っていなかった。
	町内の少子高齢化が加速。
	このまま推移していくと高土地区に子供がいなくなってしまうため。
	他地区にくらべて人口減少率が高い。
	今まで町内で行っていた事が全く出来なくなる。
	人口減少は若い人が出でていくが、戻って来ないことであり、高齢者中心の地域はおのずとコミュニティが消滅していくから。
	日本の人口減少によって高土地区が衰退するのではなく、現状維持であれば良しと思う。やはり同じ上越市民でも高士は「ざいご」と若い方は感じるのでは？
2 まあまあ危機 感がある	冬期間の除雪対応。
	心配しても解決の方法が考えつかない。
	子供の人数が減っている。
	若者が定着しない理由として、雇用が十分に市内近隣に確保されず、本人家族とも、地区を離れるにやむを得ないと考える状況にあります。行政も費用対効果を理由に特に農村部への投資を行わず（例：高士スポーツ広場など）、魅力がない地区となっています。
3 あまり危機感 がない	人口減少により、最低限の地域自治、地域運営が危うい状況になり、コミュニティが崩壊することへの危機感があります。
	日本全体で人口減少が続く見込みであり、当地区に限ったことではない。
4 全く危機感が ない	-

**(分析)** 実に12町内会（約86%）が「1 とても危機感がある」、「2 まあまあ危機感がある」と回答しました。その理由について、人口減少に伴い、少子化、高齢化が進むことにより、コミュニティの維持を危惧する意見が目立ちました。

また、「3 あまり危機感がない」の回答も、人口減少を楽観視するものではなく、日本全体の問題として捉えるものでした。

## 2 コミュニティ (1)町内会について

問1 町内会では、どのような事業を行っていますか。 (複数可)

(n=14)

選択肢		回答数	割合
1	春祭り	10	71.4%
2	夏祭り	7	50.0%
3	祭り（春祭り、夏祭り以外）	3	21.4%
4	懇親会	5	35.7%
5	年始会	10	71.4%
6	さいの神	8	57.1%
7	総会	9	64.3%
8	なし	0	0.0%
9	その他：	2	14.3%
納涼交流会（盆踊りに代えて）			
江さらい、池の泥払い、神社祭			
無回答		1	7.1%
計		55	392.9%



問7 高士地区の情報を得るための手段や機会は、どのようなものがありますか。また、あると便利（便利だった）だと思うものを教えてください。（複数可）(n=14)

選択肢	A 現在の手段		B あれば便利（だった）	
	回答数	割合	回答数	割合
1 地区だよりたかし	12	85.7%	0	0.0%
2 回覧版	13	92.9%	0	0.0%
3 電話	2	14.3%	0	0.0%
4 インターネット（LINE等のSNS）	1	7.1%	3	21.4%
5 ご近所付き合い	6	42.9%	1	7.1%
6 各行事への参加	7	50.0%	2	14.3%
7 有線放送			8	57.2%
8 なし	0	0.0%	4	28.6%
9 その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	7.1%	1	7.1%
計	42	300.0%	19	135.7%

**(分析)** 問1では、「春祭り」、「年始会」などが7割以上、また、「総会」も64.3%と約3分の2の町内会で行われていることが分かりました。

問7では、「地区だよりたかし」や「回覧版」が、どちらも9割前後の町内会で地域の情報を得るための手段や機会として利用されています。一方で、「あれば便利だった手段」として「有線放送」と回答した町内会が57.2%と半数を超える、地域の情報を得る有益で効果的な手段であったことが分かります。また、3町内会(21.4%)が「あれば便利な手段」として「インターネット（LINE等のSNS）」と回答があり、今後の活用が期待されます。

## 2 コミュニティ (2) 老人会について

### 問1 老人会（またはそれに準ずる会）はありますか。 (択一)

(n=14)

選択肢	回答数	割合
1 ある（町内単独）	2	14.3%
2 ある（他町内と合同で組織している）	3	21.4%
3 ない	8	57.2%
無回答	1	7.1%
計	14	100.0%

各町内の会員数

- ・高和町：10人
  - ・元屋敷：14人
  - ・飯田：約50人
  - ・森田：17人
  - ・十二ノ木：22人
- 平均人数 22.6人

### 問2 老人会が行っている活動にはどのようなものがありますか。 (複数可)

(n=6)

選択肢	回答数	割合
1 輪投げ	5	83.3%
2 ゲートボール	0	0.0%
3 ポッチャ	3	50.0%
4 ボウリング	1	16.7%
5 グラウンドゴルフ	0	0.0%
6 ボランティア活動	1	16.7%
7 美化活動	4	66.7%
8 懇親会	4	66.7%
9 日帰り旅行	2	33.3%
10 お茶会	3	50.0%
11 見守り活動	1	16.7%
12 会はあるが活動は実質ない	0	0.0%
13 その他	2	33.3%
1 泊旅行		
1 泊旅行、研修会（スマホ教室、オレオレ詐欺被害防止など）		
無回答	1	16.7%
計	27	450.0%

### 問3 老人会を運営する人手、担い手の状況についてお聞かせください。 (択一)

(n=6)

選択肢	回答数	割合
1 足りている	2	33.3%
2 足りていない	3	50.0%
無回答	1	16.7%
計	6	100.0%

ご協力いただいた町内会長の皆さん、大変ありがとうございました。

次号では、「2 コミュニティ（子ども会）」「3 子育て」について抜粋して掲載する予定です。